

---

# ファンファーレ

さわ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
ファンファーレ

【コード】  
N0691B

【作者名】  
さわ

【あらすじ】  
「寝たいときに寝る！殺したいときに殺る！そんな自由奔放な撲殺中学生の素晴らしく救いようのない物語。」

序曲：・・・

物語もない。

舞台もない。

主人公ハダレ？

撲殺が生き甲斐の異常中学生。

生首をこよなく愛する異常者。

未来を先読む普通じゃない女。

研究の為に生き続ける研究者。

信念を貫き通す馬鹿正直女侍。

素晴らしくも救いようのない楽器たち。

>>フィークルファンファーレ<<

## 第1曲：第一印象。

俺たちファンファーレ。  
月夜に狂った血が騒ぐ。

…あれ？月出てないし。

今日満月じゃないのかよ。

あ、雨降ってちゃ見えねえか。

てかドシヤ振りじゃん。

あ、あパンツまで濡れてるし。

ま、とりま…

「ざ・えんど…」

…ボキツグシャ、グチャ

豆腐を潰す様に、

人体の頭は壊れる。

ただ木製バットで殴っただけなのに。

賑わいのある駅前から少し目をそらした所。

薄汚れた路地裏。

異臭が漂い、異形が見える。

異臭は無遠慮に放置されたゴミの臭いと、血の臭い。

と言っても雨で微かなモノなのだが。

異形は原形を留めていない人間。だったモノ。今となってはただの、  
肉塊。

幻影の月の光に照らされて、少年は今宵も撲殺す。

雨が多少弱くなり、

雲の合間から

微かに月が覗く。妖しく輝く満月。

「あれ。今。月、ちら見えたあ…イイコトありますように…」

いや。のっけから人殺しててゴメンナサイ。  
とりま”事故”紹介ね。

さつき起きた事件、名前を付けるなら殺人事件になるのかな？  
被害者は仮にWさん。

殺害動機は極めて複雑。

弱いから。Wさんは弱いから殺されたわけ。

強い奴だけ生きていれば良いこの世界。

弱い奴は生きるための資格試験を受ける資格もない。

すなわち存在価値が0。

そう思わない？

税率UPやら北朝鮮問題。

全部強い奴らが事を進めていく。

なんて、複雑。

なんて、迷宮。

なんて、矛盾。

あ、ところで、この事件の加害者は俺。狼森 オイノモリクチハ 朽葉。  
中学2年生の13歳(ちなみに3月30日生まれ、プレゼント待っ  
てるね)だ。

そこら辺にいる極々普通の中学生。

ただ、趣味が撲殺なだけで。

## 第2曲：ムツゴロ 王国。

俺、狼森朽葉は電車の揺れに身を任せ夢うつつだった。

『次は - 駅 - 駅 - 』

…おお！降りなきや。

現在の時刻。

AM 8時10分。

ちなみに駅から俺の通う五宮中までマジダツシユイッミヤ10分。

どう考えても遅刻ギリギリ。

俺はいつも、ギリで学校に行く。朝、苦手なんだよね。

駅に付き、とりまダツシユ。

一応ね、一応だけど俺皆勤賞狙ってるワケね。

ボロ臭い学校の門を抜け、これまたボロい下駄箱で靴を書き替えた。  
んで、3階まで一気に階段を駆け上がる。

我が教室に入ると金髪が目立つ俺のトモダチ、シノミヤ・ムツキ篠宮睦希が陽気に出  
迎えてくれた。

「くち坊！おはよ - -」

”くち坊”つてのは俺のことね。

睦希だけが俺をくち坊って呼ぶ。専用のアダ名なワケ。

「はよ - -」

社交辞令程度の一言挨拶を済ませ席に座る。

睦希も俺の後ろに座った。

俺らの席は窓際だから、外の景色がよく見える。

つつても、見えるのは家だらけのつまらない町並み。

排気っぽい道路。

憔悴した弱い人間。

そして、

…綺麗な空。

それだけだ。

昨夜の激しい雨など忘れさせる穏やかな空だけを、しばらく眺めていた。

30秒くらい経った。

あ…、やべ。飽きた。

そこで丁度良く睦希が肩を叩いてきた。

これは、何か話したいときの合図。

俺は直ぐ様、体ごと後ろに向けた。

「どしたんムツゴロ…、ゴメンナサイ」

俺が、あの動物王国の大先生の名で呼ぼうとした瞬間…

睦希のにらみつける攻撃！！が俺に大ダメージを与えた。

（キンパの隙間から覗く鋭い眼光に俺は、言葉を失った。）

「どしたん、睦？」

「ん、あぁなんか今日朝礼あるらし・よ」

睦希はいつもの、陽気な表情になり用件を述べた。

…ん？

リプレイ、リプレイ。

”朝礼があるらし・よ。”

”朝礼”があるらし・よ。

…朝礼？

「…は！？なんで!？」

今日は、第2月曜。

朝礼なんて忌まわしく、めんどくさいモノはないはずなのに!!

「昨日、近くで通り魔出たらしい」

ん？昨日？

「どこらへん??」

昨日ってえと…

「くち坊ニュース見ねえの…?」

「うん。」

てか、睦希は見るんだ。

金髪のクセに…。

おっと、見た目に偏見を持つな俺…、悪い癖だぞ。

「で、どこ?」

「駅辺りの路地裏だつて。やばいグロかつたらしい」

あ。ソレ僕で・す。

明らか犯人僕で・す。

「怖いね…」

とりま、怖がる俺。

「くち坊…危機感ないっしょ。電車通学だべ？」

「うん」

「今日も出るかもしんじゃないだろ。」

…おお。心配してくれるのか心の友よ。

「俺は平気。始まるっばいし。行く…」

…なんで昨日、あんな近場で殺っちゃったんだろ…。

朝礼たる…。ま、自業自得か…。

教室を出る前に、

も一度、窓の外を見る。

駅が、ちら見えた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0691b/>

---

ファンファーレ

2010年10月28日08時05分発行